

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

芸術系コース(美術)  
／小川 勝

### ■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

#### I. 学長の定める重点目標

##### I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

#### 1. 目標・計画

2011年度まで4年間にわたって、基盤研究(A)により全国的な共同研究を遂行してきたが、それも終了し、2012年度からは個人研究に立ち戻って、これまで長年にわたって研究している洞窟壁画に関する解釈研究をテーマにして、3年間の基盤研究(C)「洞窟壁画の解釈研究」を申請していることである。

#### 2. 点検・評価

科研の基盤研究(C)「美術の起源論的アプローチに関する基礎的調査研究」が採択されたので、今後3年間は、研究計画に基づいて、充実した基礎調査を行うこととなった。

##### I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

#### 1. 目標・計画

これまでも学生を送っていただいている京都精華大学から、2012年度は非常勤講師として池垣タダヒコ教授をお招きしており、懇談する中で学生の受験を依頼し、必要であれば大学訪問を行い、説明会等を実施する。

#### 2. 点検・評価

実績があまり上がらなかったため、今後の課題としたい。

## Ⅱ. 分野別

### Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

#### 1. 目標・計画

従来どおりの授業を担当するが、教育内容をさらに充実させて、受講者が、教師になった後も、自ら学びつづける姿勢を身につけるように、その基盤的な力を育成してゆかなければならない。

#### 2. 点検・評価

学生には採用された後も、生涯にわたって学ぶ姿勢を身につけるよう指導した。

### Ⅱ-2. 研究

#### 1. 目標・計画

申請中の科研が採択されれば、それに基づき、海外調査も含めて、洞窟壁画の解釈研究に邁進するが、万一採択されない場合でも、文献研究による研究史の探索により、基礎的な知見を積み上げてゆかなければならない。

#### 2. 点検・評価

科研の基盤研究(C)「美術の起源論的アプローチに関する基礎的調査研究」が採択されたので、今後3年間は、研究計画に基づいて、充実した基礎調査を行うこととなった。

## Ⅱ-3. 大学運営

### 1. 目標・計画

2012年度は「コース長」をつとめさせていただき予定であり、力を尽くして、コースの教員と学生が問題なく教育研究に集中できるようにし、かつ大学執行部や学外との折衝にも心を尽くしてゆかなければならない。

### 2. 点検・評価

コース長として大過なく過ごすことができた。

## Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

### 1. 目標・計画

2012年度から国際交流委員会委員となるので、尽力しなければならない。

### 2. 点検・評価

国際交流委員会委員として、所定の業務を遺漏なく行った。

## Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

科研が採択されたことにより、外部資金の導入に微力ながら貢献できた。